2

3

4

1

1 緑あふれるオフィスには、さまざまなタイプのミーティングスペースがあり、社員の創作意欲を喚起している 2 土曜夕方の情報番組《SOUP》は自社制作コンテンツの一つ。本社スタジオから放送 3 所有するホテル《いにしえの宿 佳雲》などを活用した観光事業にも注力 4 今夏主催の音楽フェス《IZUMO OROCHI FES 2024 IN MATSUE》(Photo by 宮脇洸太)

さんいんちゅうおう ほうそう
山陰中央テレビジョン放送 株式会社

01
LEADING COMPANY

テレビの枠を超えた 無限の可能性に挑戦

コンテンツ力を生かし、幅広い分野で事業展開

フジテレビ系列のローカル局として、ニュース、情報番組の制作・放送、イベントの企画運営などで地域を盛り上げる《山陰中央テレビジョン放送株式会社》。島根県初の民間テレビ局として1970年に開局、山陰の発展に貢献してきた。

会社のブラッシュアップに不可欠なのが、社員一人一人のオリジナリティーあふれる想像力。ユニークなアイデアが、活発な意見交換を経て磨き上げられていく環境を作ろうと2021年、本社2階フロアを大胆にリニューアルした。緑あふれるフロアにはカフェ的ミーティングスペースが広がり、窓際には大橋川を臨めるバーカウンターのようなコーナーや自由にくつろげるハンギングチェアも。職場という概念を覆した柔軟性あふれるオフィスだ。

フリーアドレス制を導入し、部署や役職に関係ない偶発的な出会いも創出。田部長右衛門社長(45)は、「非現実的な環境だからこそイノベーションを起こせる。コミュニケーションが活発化し、コンペの勝率も上がっています」と効果を語る。

ネット広告市場が急成長し、厳しい局面にあるテレビ業界。しかし、田部社長は現実を直視した上で、テレビ局ならではの総合的なコンテンツプロデュースに力を注ぎ、さらなる可能性を切り拓いている。24年4月には地域創造ビジネス局を新設。近年注力してきたe-ビジネスは、海外にも拡張する予定だ。24年夏に開催した山陰最大級の音楽フェスは、2日間で9000人を動員。26年には松江市の天神町商店街に日帰り温泉と宿泊を備えた賑わい施設をオープンする。「旧来の観光地でオーバーツーリズムが問題となる中、地方にどれほど人を呼べるかが重要。弊社所有の宿泊施設を絡め、観光事業にも力を入れていきたい」

クオリティの高い番組づくりにも余念がない。ロケバラエティ番組《かまいたちの掟》を始め、前シリーズの好評を受けて24年10月に再始動した《ゴルフ★パラダイスSEASON2》、東京支社企画の情報番組《ハシアゲ》など自社制作番組も多数。22年にスタートした若い男性タレント2人が大根島で農業に挑戦する番組《結び農縁》は、YouTubeでの配信を続けており、自社通販サイトで販売する収穫野菜は毎回完売している。「テレビ局は活力がなきゃ。失敗を恐れず、自由にトライしてほしい」。〝普通〟の地方局からの脱却を目指し、邁進し続ける。

TSK
さんいん中央テレビ

山陰中央テレビジョン放送 株式会社

事業内容

放送事業、放送番組の企画・制作・販売、各種イベントの企画・運営、不動産関連事業、eビジネス事業など

創　業　昭和45 (1970) 年4月1日
代表者　代表取締役社長　田部 長右衛門
社員数　126名 (男76名　女50名)
本　社　島根県松江市向島町140-1
電　話　0852-20-8888

採用エリア(勤務地)

松江市、出雲市、米子市、鳥取市、浜田市、広島県、大阪府、東京都

採用区分

新卒採用　キャリア採用

採用担当者からあなたへ

「明るく元気にコミュニケーションが取れる人」、「挑戦意欲がある人」、「テレビにとらわれない発想力を持つ人」を求めています。テレビ局というと番組制作や報道などのイメージが強いですが、イベントの企画運営、通販事業など、テレビ以外の事業にも積極的に取り組んでいます。

総務局 人事部
原 ひより さん

資料請求・お問い合わせ先
採用直通 TEL
0852-31-0160
採用直通 E-mail
saiyo@tsk-tv-co.jp

公式サイトはこちら　求人サイトはこちら

メディアの「伝える」力を生かし、地域課題の解決に貢献したい

本社営業部
大野 陽代さん(23)
2024年入社

中学時代に放送委員を経験し、声を使って情報を伝えることに興味を抱き始めた。高校では放送部に所属、NHK杯全国高校放送コンテスト県大会で、1、2位の実績を持つ。「ニュースは明瞭に話した方がいいですが、朗読は必ずしもそうではありません。伝えることの奥深さを改めて感じました」

大学時代には1年間、ファッション雑誌専属のWebライターも経験。就職先としてマスコミ業界を視野に入れる中、地元テレビ局に制作志望で入社した。現在は主にCMの企画提案を担当。クライアントに対し、PRしたい商品の内容を伺い、視聴者層などニーズに合う最適なCM枠を提案したり、テレビCMだけでなくYouTubeとセットでの展開を呼びかけたりしている。「スポンサーの課題解決のお手伝いができ、やりがいを感じています。実は営業も向いているかも」と笑う。

「メディアの力を生かし、今後も企業や地域課題の解決に携わりたい。自分がつくったコンテンツをきっかけに、年齢や性別、住む地域などを理由に選択肢を狭める人が、少しでも減るとうれしい」と語る。

音の聞こえ方を調整し、魅力ある番組に仕立てる

技術部
松尾 大翔さん(22)
2023年入社

「家族の誰かがいればずっとテレビがついている家で、物心ついた時には既に生活の一部でした」と笑う松尾さん。高校生になってスマートフォンを手にしYouTubeなども楽しむようになったが、逆にプロ集団が創り上げるテレビのクオリティの高さやプレミアム感も抱くように。中学の職場体験では地元ケーブルテレビを選択。高専に届いた求人票を機に、就職を希望した。

メインの担当は音声。自社制作の情報番組《SOUP》では、話している人の音量を上げたり、BGMを調整したりして、視聴者が聞き取りやすいように作業する。「台本は一応ありますが、生中継なので臨機応変を求められることも多く、気が抜けません」。《島根スサノオマジック》中継番組も担当。「スタジオと違って観客の声が大きくて大変。バスケは試合展開が早く、片方のリングマイクで音を拾った後、一転相手チームのゴールを追いかけるなど慌ててばかりです」と苦笑する。

技術スタッフとして編集機器やマイクなどの修理・保守点検も担うなど、高専時代の学びも生きている。